**２ 生産年齢人口減をどう切り抜けるか**

EE22-1293E 木村拓登

* 生産年齢人口とは

１５歳以上６５歳未満の国内の生産活動を中心となって支えている人口のこと

* **カギ握る女性と高齢者**

年数　　　　　　生産年齢人口　　　総人口に占める割合

２０１５年　　　７７２８万人　　　６０％

２０４０年　　　５９７８万人　　　５１％

* どのように労働力を確保するのか？

→女性・高齢者・外国人の労働力をより上手に利用する

* 女性は出産や育児などで退職し労働市場から退出する課題
* 企業などで働きたいが働けない女性の労働参加率を上げることが重要
* 健康寿命が延び６５歳を超えても働きたい高齢者が増えている
* 高齢者でも働きやすい職場環境や賃金などの処遇改善が必要
* 高齢者の定義を６５歳以上から７５歳以上に引き上げるという意見
* **増える外国人労働**
* 外国人の労働者の急拡大

２０１９年１０月末　日本で働く外国人 約１６６万人

* 日本は労働力人口の減少を外国人労働者で支える構造

日本人　１億２４２７万人　５０万５０００人減少

外国人　２８６万６０００人　7.5%増加

* 中長期的視野にたって外国人労働者の受け入れ対策をすることが重要
* ２０１９年４月　新たな在留資格「特定技能」の設置

１号　最長５年の在留を認める

２号　家族の滞留や在留期間の更新可能

* 初年度は想定の１割以下の４０００人弱
* 外国人労働者の受け入れを円滑にするには、日本語教育や社会の基盤設備が必要
* **生産性引き上げがカギに**
* 潜在成長率の引き上げには、労働力人口の減少を抑える努力だけでなく資本・生産性の増加が必要
* 資本の投入を高めるには企業の投資が必要

→日本の魅力を増やすことが求められる

* 潜在成長率を高めるのに最も重要なのが労働生産性の引き上げ
* 労働生産性とは

労働者１人あたりが生み出す成果、または１時間で生み出す成果の指標

* 生産性を高めるために効率的な働き方と技術革新が必要
* 第４次産業革命は技術革新で生産性を高めるチャンス